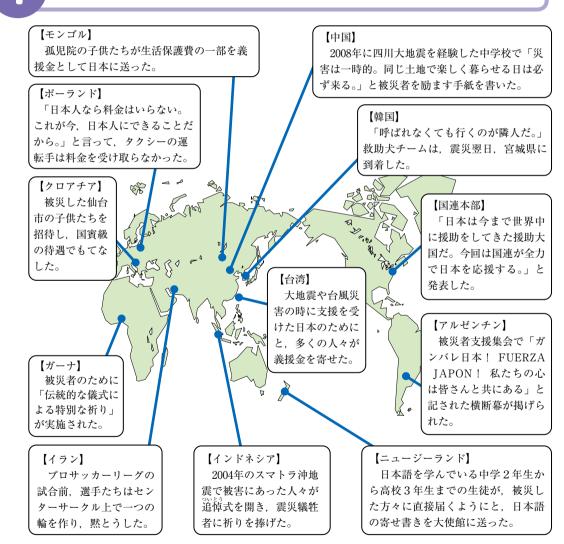
がんばれ日本! 世界は日本と共にある

東日本大震災直後から、世界各国・地域は日本に対して数え切れないほどの 励ましのメッセージを届け、援助の手を差し伸べてくれた。それらの支援に は、どのような思いが込められているのだろうか。また、私たち中学生は、そ の支援にどのように応えていけばよいのか考えてみよう。

世界各国・地域からの励ましや祈り



世界中から心の込もった励ましの言葉、支援物資や義援金等が寄せられた。こうし た海外からの援助や日本国内のボランティア支援など、多くの人々に支えられて東日 本大震災の復旧・復興は今も進められている。

広がる迅速な支援の輪

東日本大震災後の数日のうちに、7つの国・地域(韓国、台 湾、米国、シンガポール、中国、スイス、ドイツ)が被災地に 入った。最初に入った韓国は、3月12日に救助犬チーム(人員 5名と救助犬2匹). さらに3月14日には追加支援隊員102名を 派遣し、総勢107名の救助隊で活動を始めた。そして、その後 写真提供: 駐側台大韓民国総領事館



約2か月間で、23の国と地域からの緊急援助隊や医療チームが日本を訪れた。各国の迅 速な活躍ぶりは、被災者の方々を大いに勇気付け、励ますものだった。



ネパール地震で活動する自衛隊の国際緊急援助隊 (防衛省・自衛隊 HPから)

自然災害が多い日本では、豊富な経験と技術を生かし、震 災以前から国際緊急援助隊を派遣していた。現在も、救助 チーム・医療チーム・専門家チーム・自衛隊部隊・感染症対 策チームなど、様々な職種の人々で構成された日本の国際緊 急援助隊は、災害救援への人道的な思いとともに、震災時 の迅速な支援への感謝を込めて活動に当たっている。

第3回 国連防災世界会議(H.27.3.14~3.18)の開催

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について国連機関や各国の首脳陣が議論す る国連主催の会議であり、第1回 (1994 (平成6) 年、横浜)、第2回 (2005 (平成17) 年、 神戸)の会議とも、日本で開催されている。仙台市を会場にした第3回目の会議では、 パブリック・フォーラムも含め、延べ15万人が参加して東日本大震災の教訓を踏ま えた防災・減災を議論した。その結果、これから15年間の新しい国際的な防災の指 針である「仙台防災枠組 2015 - 2030」と、防災に対する各国の政治的コミットメン トを示した「仙台宣言」が採択された。



制作されたタンブラーと、フォーラムでの発表の様子(高砂中)

仙台市内の小中学生も、防災会議参加者への記 念品「タンブラー」の制作や、パブリック・フォー ラム『新たな防災教育「3・11から未来へ|』で防 災への取り組みを発表し、仙台を訪れる様々な国 の人たちへ「3・11から未来に向けて力強く歩む子 どもたちの一人一人の思い」を世界に発信した。

私たちの防災や復興への取り組みは、これから も世界の中で指針となり、その実行と協力を期待 されている。

5